

九州ネット

6月14日
第2号

九州体育・保健体育ネットワーク研究会

宮崎県開催 < チキン南蛮ラウンド > H26.6.14(Sat) in 宮崎市中央公民館

南九州（鹿児島、宮崎）以外からの参加者は少なかったものの、広島県の清田先生、福岡県の四方田先生にも来県していただき（41名）第2回九州ネットワーク チキン南蛮ラウンドを開催しました。

本県ラウンドでは、これまで、「今さら聞けない」ことでも尋ねやすい、居心地のよい研修会を目指して、

H23：「新学習指導要領の取扱い」（29名参加）

[活動スケジュールをクリックすれば、御覧になれます](#)

校種別・・・今さら聞けないQ&A

H24：「評価規準の作成、評価方法の工夫」（31名参加）

ミニ単元構造図作成

H25：「よい授業づくり」（37名参加）

参観授業の視点についてのディスカッション

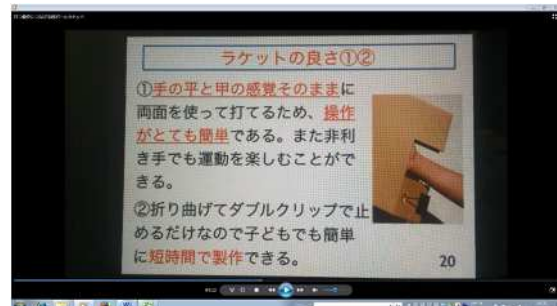
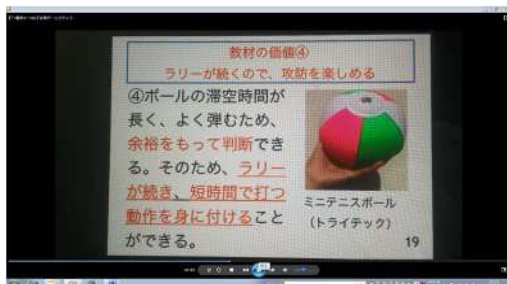
を展開してまいりました。



今年度（H26）は、宮崎大学 三輪先生が主催する宮崎運動指導研修会と共催で、『教材・教具の工夫』に視点を当てることとしました。

発表1 打つ動作につなげる段ボールラケット

宮崎市立清武小学校 村中田 博 指導教諭から、小学校の実践（攻守一体タイプのネット型）をDVD映像で発表していただきました。



発表2 ハードル走の授業における教材、教具の工夫



宮崎市教育委員会 田中 美津枝 指導主事から、自分に合ったインターバルの距離と課題となるハードルの高さを見付けるためのアイデアやハードルに対する恐怖や不安感をなくすためのハードルの工夫などを発表していただきました。

三輪先生からも、補足説明や参加者からの質問に答えていただきました。

参加者の声

既存のスポーツを、学習指導要領解説に示されている指導内容にせまるために、発達の段階に応じて、易しく、簡易化されたものが「教材化」「教材の工夫」であり、指導するためによりわかりやすくするために、「教具の工夫」というイメージが見えてきました。

学校で教えることはすべて教材で、教材をどのように料理していくのか、道具等の教具が調味料だという表現が腑に落ちました。

教材、教具の工夫というと、「技能」に偏ってしまいがちですが、「態度」などの指導内容にせまっていける工夫を試みたいと思います。

平成27年度も参加者のニーズに応えられるような研修にしますので、九州の右側を見捨てないでください。